

北区の部屋だより

第56号

2014年3月



刊行物登録番号 24-2-070

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 ☎03-5993-1125 平成 26 年 3 月発行

北区こぼれ話 第55回

帝都東京の電撃戦？ — 買ってください！我が社の電気 —



最近、電気事業への新規参入という言葉を目にします。歴史をひもといてみると、戦前の東京には多くの電気事業者がおり、価格競争やM&A(企業買収など)を繰り返していました。のちに、電気事業が1ブロック1社になるのは、昭和戦中期の電力国家管理の影響です。各事業者は、日本発送電株式会社と9ブロックの配電会社(関東配電・関西配電など)に統合されました。戦後、それらをもとに東京電力や関西電力などが発足したのです。

戦前の自由競争時代、王子電気軌道(王電と略、現在の都電荒川線)は、巣鴨に火力発電所を持ち、一般家庭に電気を小売りしていました。今の北区・豊島区・板橋区・荒川区・足立区・埼玉県の川口などがその範囲でした。

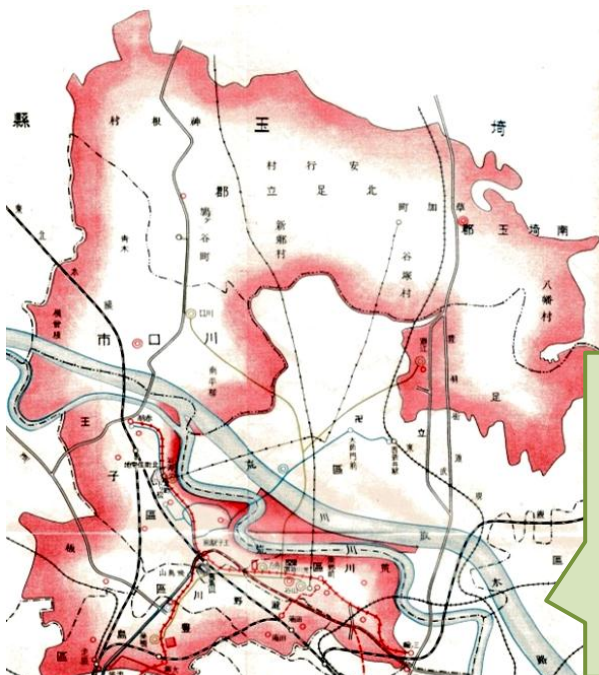
王電のライバルは東京電燈でした。東京電燈の給電範囲は関東一円であり、重複区域で王電と激しい競争を展開しました。しかし、大正14年(1925)両社はカルテルを結び、翌15年、東京電燈が王電の株を大量取得して競争は終わりました。昭和10年(1935)の資料で確認すると、王電の筆頭株主は「東電証券取締役小林一三」です。小林一三は、昭和2年、郷誠之助とともに東京電燈の取締役となり、さらに、昭和5年、郷がその社長に、小林が副社長に就任しました。小林は、阪急電鉄の経営者で、宝塚歌劇団や東宝の創業者です。最近では、テニスの松岡修造氏の曾祖父としても有名です。

王電や東京電燈に限らず、戦前の電気事業者は、熾烈な競争をしいられました。特に、中央官庁や軍事施設が集中した「帝都」東京では、軍の工場のような大口需要をめぐって激しい価格競争がありました。大正2年12月3日の『東京朝日新聞』によれば、小石川の陸軍砲兵工廠(現、東京ドームシティ)と、その十条支廠(現、十条駐屯地や北区立中央図書館など)は、ともに電力の年間契約を入札で決定しました。入札に参加したのは、東京電燈・日本電燈・桂川電力・東京市電気局(のちの交通局)などでした。その結果、十条支廠については、桂川電力が落札しました。1キロワット時あたり1銭7厘で、当時の適正価格でした。一方、小石川の本廠は、東京市電気局が落札しました。その東京市電気局は、鬼怒川水力電気(小田急の親会社)から、電車用電力を1銭7厘で購入していました。ところが、それを下回る1銭6厘8毛で砲兵工廠に供給するというので問題視されました。価格競争の過熱ぶりがよく分かります。

【北区の部屋・地域資料専門員 黒川徳男】

東京砲兵工廠十条支廠変圧所の一部 白い碇子(がいし)が横3列に並んでいる(自衛隊十条駐屯地内に部分保存)

王電の給電範囲沿線のほか川口や鳩ヶ谷、現在の八潮市の一部もカバー
『王子電気軌道二十五年史』



今月の展示



テーマ:北区の高いところ・低いところ

期間:平成26年2月28日(金)~3月27日(木)

場所:「北区の部屋」展示コーナー

北区きふくの地形、特にその起伏については、多くの区民の方々が日常の生活の中で実感されていること
 と思います。でも、これを改めて地図で見るとどうでしょう。今まで気づかなかった発見があるかもしれませ
 ン。そこで今回の展示では、国土地理院の数値地図こくどちりいんをカシ米尔すううちちず3Dで加工した標高立体地図スリーディを見ながら、
 北区を概観がいかんしたいと思います。

こんな資料も歴史の語り部

今月のこぼれ話によせて

しばらく前から「断捨離」とか「かたづけ」という言葉を使った本が
 増え、捨てることが美德だと説かれてきました。それだけでなく、領収
 証や給料明細なんて、捨ててしまう方がほとんどでしょう。しかし、時
 代を経ると、そんなものが輝きを増してくることがあります。例えば、
 この一枚。王子電気軌道の電灯料領収証(西が丘柴田家文書)です。「北
 区の部屋」で、地域資料として保存されています。ありふれたものだから
 こそ、ほとんど残されていないのです

年金記録問題が起こったとき「給料明細でもとっておけば良かった」
 という声をお聞きました。捨てないこと、壊さないこと、残すこと、
 そして地域や自分の歴史を大切にすることも大切なことですよね。



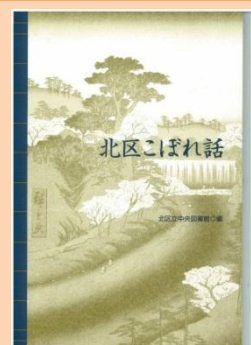
「北区の部屋」デジタルアーカイブの紹介

北区きたくの部屋では、承諾の取れた地域新聞や行政関係の刊行物、
 中央図書館所蔵の古い写真をデジタル化した画像がご覧いただけます。
 (専用パソコンでの閲覧のみ)

これらの地元ならではの資料は、当時の北区を知ることが出来る
 貴重な資料となっています。お気軽にご利用ください。

公開している資料

- ① 北区きたくの部屋管理の写真(よく利用される写真の表と画像)
- ② 王子法人会の刊行物(王子法人会だより・周年誌)
- ③ 都北新聞バックナンバー(1962~2011、欠号あり)
- ④ 北区文化振興財団の刊行物(CONPASSの一部)
- ⑤ 北区商店街連合会の刊行物(北区商連・北区商業名鑑)
- ⑥ 商工会議所北支部の刊行物(北区時間)
- ⑦ 産業振興課(新しい風・北のムーブメント・名品ガイド・各種調査報告書)



中央図書館で「北区こぼれ話」を刊行しました！ 北区立図書館で貸出中！

この北区の部屋だより連載中の「北区こぼれ話」(第1回~第50回)が1冊
 の本にまとめられました。本編のほか、字数の関係で掲載できなかったエピソードや発行後に判明した新事実、関連する内容をコラム風に加筆、再編集しました。北区立図書館全館で貸出中です。ぜひ一度ご覧ください！

北区の部屋だより

第57号

2014年4月



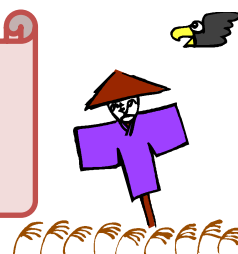
刊行物登録番号 25-2-070

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 ☎03-5993-1125 平成 26 年 4 月発行

北区こぼれ話

第56回

したたかな江戸時代の農民



歴史上、為政者によって常に虐げられたように見える農民たちも、その実はしたたかで、強くたくましい存在だった。黒澤明監督の映画「七人の侍」は、そんな農民の姿を見事に描き出しましたが、農民のしたたかさは北区の古文書でも垣間見ることができます。今回はそんなお話を少し。寛永20年（1643）、幕府は、田畑永代売買禁止の触れを出し、これによって、江戸時代は、原則として田畑の売買ができない世の中となりました（禁令の廃止は、明治2年のことです）。しかし、農民としても、年貢が払えないとか、どうしてもお金がいるとか、さまざまな理由で金銭を必要とすることがあり、その場合は自分の田畑を他の人へ質草として差し出しお金を借りる、質地という慣行によって金銭を融通していました。旧滝野川村の戸部家文書にも多くの質地証文が残っており、滝野川村でも質地による農民同士の金銭貸借を確認することができます。

ここまでは、全国津々浦々どこの村でも見られる話ですが、滝野川村では、こうした質地証文に加え、まさに当事者同士で取り交わした裏の証文が残されていました。そこには、「正式な証文には、年季は10年と定めていますが、田畑を請け戻す気はありません。実質のところ（金銭授受による）譲渡です。したがって、この田畑はあなたの自由にしてくださいませ。」（現代語訳）といった内容が記されており、この証文が実質的な田畑売買を確認したものだということがわかります。そして、こうした裏の証文が、戸部家文書には数多く残されているのです。表面上は、幕府の禁令を順守し、質地という慣行のもとで証文を取り交わすのですが、これはあくまでも表向き。実際には、証文通りには話を進めないことを当事者同士、裏では別の証文を取り交わし確認していたのです。当然、こうした金銭授受をとまなう田畑の譲渡は、永代売買の禁に背くことになります。だから、もし幕府の役人が来て、取り調べを受けるようなことになったとしても、しれっと、正式に取り交わした質地証文だけを証拠として差し出したのでしょう。どうです、江戸時代の農民も結構したたかだったと思いませんか？



【北区の部屋・地域資料専門員 保垣孝幸】

今月の展示

テーマ: 田んぼと畑の記憶 - 北区の農業 -

期間: 平成26年3月29日(土)～4月23日(水)

場所: 「北区の部屋」展示コーナー

明治から昭和 30 年頃までの
北区の農業をふりかえります。
子どもの頃に見た田んぼや畑、
あぜ道、牛などの記憶を思い
だしてみたいかがでしょうか。
そして、田園風景を知らない
世代には「これが北区か！」と
驚いていただけると幸いです。



写真は桐ヶ丘・八幡ヶ谷（昭和 20 年代）。渡辺肇氏撮影。

講座の お知らせ

チャレンジ！ 北区の古文書

日時: 5月9日(金)～6月13日(金)(毎週金曜日 計6回) 午前10時～12時

場所: 中央図書館 3階ホール

内容: 北区の古文書を題材に、くずし字の調べ方など初歩の解読を演習方式で行います。

講師: 地域資料専門員 ほがきたかゆき 保垣孝幸氏(近世史研究家) 定員: 25名(抽選)

対象: 区内在住・在勤・在学、18歳以上の方 申し込み期限: 4月24日(木) 必着

申し込み方法: 往復はがきに、希望講座名・郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号
(ファックス番号)・※在勤・在学の場合は勤務先・学校名(学年)

※4月1日から郵便料金に変更となりましたのでご注意ください。

申し込み・問い合わせ先 〒114-0033 北区十条台 1-2-5 ☎03-5993-1125 fax03-5993-1044
北区立中央図書館 事業係

「北区が登場する本のリスト」を更新しました。

北区立図書館では、利用者の皆様にご協力いただき、「北区が登場する本のリスト」を作成し、各図書館の地域資料コーナーやホームページで公開しています。このリストに掲載されている本には北区コミュニケーションマーク(さくらマーク)を背表紙につけてわかるようにしています。

このマークのついている本のどこかに北区の地名が出てきます。

ぜひ、ご覧になってみてください。

また、北区が登場する本を見つけた方は、各図書館の窓口にお知らせください。情報をお待ちしています！



北区の部屋だより

第58号

2014年5月



刊行物登録番号 25-2-070

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 ☎03-5993-1125 平成 26 年 5 月発行

北区こぼれ話 第57回

古いレールを探してみよう — 駅の柱に日独の歴史を想う —



「古いレールを探してみよう」などと書くと、五月病の季節に、線路なんて見つめていたら「まわりの人に勘違いされるじゃないか」とお叱りを受けそうです。

私が、探そうと言うのは、線路ではなく、駅の柱などに再利用されている古いレールです。写真1をご覧ください。東十条駅ホームの柱です。刻印には「UNION 1906 I.R.J」とあります。明治39年(1906)ドイツ UNION (ユニオン) 社製のレールです。北口跨線橋も同様のレールで造られています。

ちなみに、この明治39年、日本政府は、日露戦争の経験を踏まえ、鉄道国有法により山手線、東北線や高崎線などを国有化しました。一方、ドイツは、皇帝ウィルヘルムⅡ世の時代です。国家主義に裏打ちされたドイツ重工業。軍事戦略と結びついた欧州の鉄道政策。そんな時代のドイツで生まれたレールです。

東十条駅は、昭和6年(1931)下十条駅の名で開業しました。ちなみに、その翌年、ドイツではナチスが第一党になります。このレールが、線路として本来の役目を果たしたのは、長く見積もっても1906年から1931年までの25年ほどです。引退後、長い余生を柱として過ごしているのです。戦中の金属供出を免れ、国鉄の分割民営化を見守り、今や平成。雨の日も雪の日も、お客様が快適に乗り降りできるのは、この柱のおかげです。でも、それが100歳を超えるレールだなんて、気付く人がどれだけいるのでしょうか。

私が区内を見て歩いた限りで、最古のレールは、写真2の飛鳥山下人道跨線橋(王子駅南口と飛鳥山の間、大正14年竣工)に使われています。写真3のように、柱には「UNION D 1887 N. I. K」とあり、明治20年(1887)ドイツ UNION 社生まれと分かります。この翌年、ウィルヘルムⅠ世が逝去し、Ⅱ世が即位します。首相は、鉄血宰相ビスマルクの時代です(鉄血とは武器と兵士)。そんな19世紀ドイツのレールが、21世紀の王子で橋として使われているのです。

駅には、レールに似たH鋼の柱もあります。断面が「H」か「工」か、で区別できます。一つの駅でも、H鋼と古いレールの両方が使われていることがあります。例えば、東十条駅の場合、古くからある赤羽方面行きホームの柱はレールですが、あとから増築された王子方面行きホームの柱にはH鋼が使われています。ほかに、レールの柱は、十条駅・王子駅・上中里駅・田端駅のホームでも見ることができます。では、駅でレールの柱を探すときには、列車に気を付け黄色い線から出ないようにご注意ください。

【北区の部屋 地域資料専門員 黒川徳男】

写真1 東十条駅ホームの柱 1906年製レール

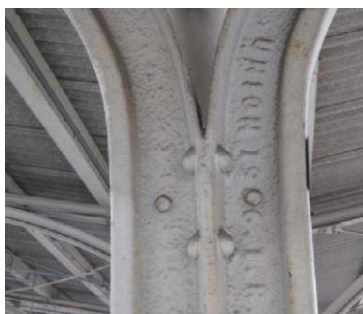


写真2 飛鳥山下人道跨線橋



写真3
1887年製
レール

今月の展示



北区立中央図書館「北区の部屋」で発行している『北区の部屋だより』の人気コーナー「北区こぼれ話」。これが1冊の本になりました。そこで今回の展示では、この『北区こぼれ話』について紹介します。まだ、ご存じなかった方、これを機会にぜひ一度手に取ってみてください。

テーマ:「北区こぼれ話」のこぼれ話

期間:平成26年4月25日(金)～5月28日(水)

場所:「北区の部屋」展示コーナー



『北区こぼれ話』販売開始!

昨年末中央図書館が刊行し、現在北区の図書館全館で貸出している「北区こぼれ話」。このたび、好評のご意見をいただき、5月9日(金)から販売することになりました。刊行に際し、北区の部屋だよりで紹介した記事に、字数の関係で掲載できなかったエピソードや発行後に判明した新事実などを新たに加筆し再編集しています。初めての方はもちろん、すでに読んだことのある方にも楽しめる内容となっています。

【販売価格】 1冊 200円

【販売場所】 中央図書館北区の部屋カウンター
滝野川図書館
赤羽図書館 (赤羽中学校跡地に仮移転中)

北区図書館活動区民の会地域資料部

「北区の歴史を学ぶ会」

図書館活動区民の会地域資料部会では、北区に関する地域資料、特に歴史資料の保存や活用について様々な取り組みを行っています。地域資料を考える上で、まずは北区の歴史を学ぼう!と開催されているのが「北区の歴史を学ぶ会」です。ご興味のある方はどなたでも参加できます。ぜひ一度お越しになってみてください!



毎月第4火曜日

午後2時～4時

場所:中央図書館

3階 区民活動コーナー

内容:毎回、学習するテーマは変わりますので、初めて参加する方でも大丈夫です。

※5月の開催は27日(火)です。

お問い合わせは 区民の会事務局

(☎03-5993-1125 中央図書館内) まで



中央図書館
「北区の部屋」では、北区の歴史に関わる資料をさがしています!

皆さんのお宅に、北区に関する古い写真や地図・文書などは眠っていませんか? 中央図書館「北区の部屋」では、このような資料を地域資料として収集しています。江戸・明治期だけでなく、大正・昭和の資料も地域を知るための大変貴重な資料となりますので、ぜひ、ご一報ください。

北区の部屋だより

第59号

2014年6月



刊行物登録番号 25-2-070

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 ☎03-5993-1125 平成 26 年 6 月発行

北区こぼれ話 第58回

だれ なん
誰が?! 何のために?!
せきとうみがき かい
石塔磨きの怪



文政 10 年 (1827) 9 月、世情を騒がせる不可解な出来事が起こりました。寺院の境内や墓所にある石塔や石碑、墓石などが、何故か磨かれています。事の発端は、麻布谷町の永昌寺、そして赤坂清水谷にあった盛徳寺の墓所にあった石塔が、夜のうちに何者かの手によって磨かれていたことでした。すると、他にも次々と石塔が磨かれている寺院が確認され、西久保の光明寺では、墓所にある 6 本の石塔が磨かれ、施主部分には新たに朱が入れられていたそうです。

これが話題になると、人々は見に行くんですね、「見物の者参り候」と、実際に見物人が訪れていたことがわかります。「どうもあの寺でも磨かれたらしい・・・」といったことが噂され、実際に見に行ったところ「風聞のみにて、右様 (※石塔磨) の義はこれなし」と、単なる噂だったということもありました。

そして、石塔磨きは、江戸郊外の寺院でも見つかるようになり、北区域でも多くの磨かれた石塔が確認されました。具体的には、上十条村の西音寺・寿福寺、下十条村の清浄寺、神谷村の専福寺、下村の西蓮寺・観音寺、滝野川村の正受院、そして王子村の金輪寺塔頭宝珠庵で、磨かれていた石塔の本数は 50 本以上にもなりました。この一件を担当していた江戸町奉行所では、「人気を迷わせ不届き」(人心を迷わせる不届きな行動) だとして徹底的な調査に乗り出し、各町々へも、もし心当たりのことがあったらすぐ奉行所まで訴え出るよう触を流しています。

さて、この話は須藤 (藤岡屋) 由蔵が著した『藤岡屋日記』という史料に記録されています。この資料は、文化元年 (1804) から明治元年 (1868) までの 65 年間、幕府のお触など政治関係の記録から、江戸市中の評判や噂などを詳細に記録したもので、由蔵は、こうした情報を武家に売って生計を立てていたともいわれる江戸の情報屋でした。残念ながらこの一件に関しては、他に記載もないのでその後どうなったか判然としませんが、『藤岡屋日記』には、こうした北区域に関する面白い記事もたくさん確認できます。なかなか『区史』等では紹介できませんが、ご興味のある方はぜひ!!

【北区の部屋・地域資料専門員 保垣孝幸】

※「藤岡屋日記」は、活字になっている本 (『近世庶民生活史料 藤岡屋日記』) もありますが、北区の図書館では所蔵していません。なお、藤岡屋由蔵については、吉原健一郎『江戸の情報屋』(NHK ブックス 332) がお薦めです。

今月の展示



テーマ：『開封！陸軍造兵廠の謎』

期間：平成26年5月23日（金）～6月25日（水）

場所：「北区の部屋」展示コーナー

このほど、中央公園文化センターは、リニューアル工事を終え、より便利に美しく生まれ変わりました。あの白い建物は、昭和5年に陸軍造兵廠火工廠の本部事務所として造られ、米軍の「キャンプ王子」時代を経て、今日に至っているのです。

北区の部屋では、これまで、展示や講演会、刊行物を通して、造兵廠の歴史を区民の皆様に伝えてまいりましたが、この機会に、新しい発見を含め、あらためて造兵廠の歴史をQ&A形式で展示いたします。

中央公園文化センターの謎が明かされます！



戦前のタイルが見えた！



壁をくり抜いた！



玄関のレリーフはいつのもの？

北区政策提案協働事業 『映像アーカイブによる街おこし』



映像でよみがえる昭和の北区 第3回上映会 懐かしい映像とオカリナのタベ

失われつつある北区の昔の風景や暮らしを発掘・公開することを目的に収集したフィルムの上映会です。

懐かしい北区の映像をオカリナ演奏とともに楽しみ下さい。

日時：6月15日（日）午後6時15分～8時

場所：中央図書館 1階 赤レンガ広場

講師：街づくり・フロンティア21/^{たかはしかつぞう}高橋克三（日本映像学会）

映像解説：^{くろかわのりお}黒川徳男・^{ほがきたかゆき}保垣孝幸（地域資料専門員）

オカリナ演奏：^{ほんだよしこ}スプラウト（^{やなかあまね}本田世志子・谷中天音）

申し込みは終了していますが、席に若干の余裕があります。

参加ご希望の方は6月7日（土）までに、右記へご相談ください。

（定員に達し次第、締め切りとさせていただきます。）



【連絡先】

中央図書館（担当：図書係山田・尾関）

電話 03-5993-1125（午前9時～午後5時）

1階 レファレンスカウンター窓口

（当館開館中）

北区の部屋だより

第60号

2014年7月



刊行物登録番号 25-2-070

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 ☎03-5993-1125 平成 26 年 7 月発行

北区こぼれ話 第59回

人間以外にも選挙権があった時代 — 法人選挙権と一級選挙人 —



とてもよく知られていることですが、かつて、衆議院議員選挙の選挙権には、納税額による制限がありました。実は、町村会議員選挙（注）においては、納税額による「一票の格差」が、あえて設けられていました。等級選挙と呼ばれた制度です。有権者は、町村への納税額によって、一級選挙人と二級選挙人に分けられていたのです（市は三級までありました）。一級選挙人はごく少数で、二級選挙人は、たくさんいました。しかし、一級選挙・二級選挙とも議席数は同じでした。一票の重さは、一級が重く、二級は軽かったのです。税金を多く払っている分、政治的権限も大きくて当然だという理屈です。法的平等よりも、税負担に重きを置いた考え方です。

その理屈に従えば、企業や不在地主なども、ある町村に多額の納税をしているならば、その町村の選挙権を与えるべきだということになります。明治 21 年（1888）発布、22 年施行の法律「町村制」では、企業などの法人や、他の市町村の住民でも、多額の税金を納めている場合、その町村の選挙権を与えるとしています（市制も同じ）。企業などが有していた、このような選挙権を法人選挙権と呼びます。

法人選挙権は、北区の歴史において重要なことです。かつて、王子町（村）では、全納税額の半分以上を王子製紙・関東酸曹・東京製絨の 3 社が負担していたので、この 3 社に法人選挙権が認められていました。王子町では、選挙の方法も変則的でした。これら企業の納税額が、極端に多かったため、原則的には、この 3 社だけが一級選挙人になる計算でした。その場合、二級選挙人のうち納税額上位者の一部を一級に繰り上げ、選挙人を議席数と同数にしました。例えば、一級選挙人 15 名が、15 議席を選ぶという具合です。もし、棄権者が 1 名でもいたら、15 議席を選ぶことができなくなる計算ですが、そこは大丈夫です。一級の投票は、連記式でおこなわれました（二級は単記式）。1 枚の投票用紙に、15 名分の氏名を書いたのです。このような選挙ですから、二級選挙に当選できないような方でも、わずか 15 名の一級選挙人に支持をお願いすれば当選できたのです。

なお、等級選挙や法人選挙権は、大正デモクラシーの中で批判を受け、大正 10 年（1921）の市制町村制改正によって廃止されました。

【北区の部屋・地域資料専門員 黒川徳男】

（注）戦前の法律では、町議会ではなく町会、村議会ではなく村会とされていました。県会・市会なども同様です。

参考文献：『北区議会史 前編』
「高木助一郎日記」（北区の部屋所蔵）

写真は、初の北区議会議員選挙（昭和 22 年）赤羽駅西口。渡辺肇氏撮影。このような、不特定多数に訴えかける選挙が王子町で始まったのは、昭和 3 年実施の男子普通選挙からです。



今月の展示



テーマ：北区の友好都市

～群馬県甘楽町・中之条町・山形県酒田市～

期間：平成26年6月27日（金）～7月23日（水）

場所：「北区の部屋」展示コーナー

全国の市区町村のうちには、私たちが住む東京都北区と友好都市の関係を結んでいる自治体が3つあります。群馬県^{かんらまち}甘楽町と中之条町^{なかのじょうまち}、そして山形県^{さかたし}酒田市です。これら3つの自治体は、北区が誕生する以前（王子区・滝野川区の時代）からこの地域との関係が深く、それが「縁」で、現在、友好都市の関係を結んでいます。

今回の「北区の部屋」の展示では、この3つの友好都市について紹介します。これから夏休みの時期に入りますが、せっかくですので、こうした友好都市を訪ねてみるのはいかがでしょうか？

北区の部屋で販売しています！

中央図書館発行の冊子たち

- ★北区の歴史はじめての一步 1冊 300円
（赤羽東、王子東、滝野川東、赤羽西、滝野川西、王子西、浮間地区の7種類）
- ★北区を想う 1,000円
- ★北区こぼれ話 200円



コラボ販売

飛鳥山博物館の冊子とグッズ

- ☆缶バッジ(6種類) 1個 100円
- ☆クリアファイル 200円
- ☆図録『岳人 冠松次郎と学芸員中田俊造』 550円
- ☆図録『ボンジュール・ジャポン ゆかしくカワイイ、和のかたちと風景』 650円
- ☆図録『常設展示案内』 500円
- ☆北区文化財ガイドブック『未知しらべ道しるべ』 400円



ご協力ください！！

昭和60年（1985年）以前に撮影されたと思われる、北区が映っている8ミリ・16ミリフィルムを探しています。見つかった北区の映像はDVD変換後、図書館で公開していきます。



詳しい説明
パンフレット
配布中！

北区政策提案協働事業「映像アーカイブによる街づくり」とは、失われつつある北区の昔の風景などを発掘・公開し、地域の活性化に結びつけることを目的に地域団体（フロンティア21）と区（図書館・博物館）が協働で行う事業です。

